

令和3年12月28日

研修報告書

1. 会派 みらいねっと都城
2. 研修名 オンラインセミナー
3. 受講場所 会派控室
4. 受講期間 令和3年11月1日（月） ～ 令和3年11月17日（水）
5. 研修内容

- ①コロナと議員活動
- ②コロナとワクチン接種
- ③コロナと支援策
- ④コロナと自治体の公衆衛生入門
- ⑤テーマ別にみる自治体財政
- ⑥自治体の基金を理解する
- ⑦自治体の借金を理解する

6. 研修の感想

① PCR 検査、抗原検査等の内容や違い、PCR 検査を行わない国の多くが、結果どうなったかなどについて。今や検査の意義について異を唱える向きは少なくなっているが、やはり、その意義を論理的に人に説明できるよう、理解できたことは良かった。また、世界において、日本が感染防止に成功と言ってよいことも、論拠を以て示され、今後役立てることができると思う。感染防止策がいつまで続くか不透明でコロナ疲れが見えてくる現状において、その効果を示すことは大切であると考えてる。

② コロナウイルスとは、そもそも何であるのか、感染とは何なのか、何が起きるのかから、ワクチン接種の効果について。接種されるワクチンがどのようなつくりで、どのように作用するのかの説明。資料に基づく科学的な解釈の詳細について。

ワクチン接種は、世の中にすんなりと受け入れられた印象であるが、接種推進のためには、安全性の証明が必要であり、そのつくりの科学的説明も必要である。よって、このような講義を受けることは、リーダーシップを担う者においては必須ではないかと思った。受講して良かったと思う。

③ コロナ禍で打ち出された支援策について。それを基に、地方での経済の停滞を復活させるには、何ができるのかについて。支援策を受けることができているかのチェックはもちろんのこと、議員からの質問によって提案や提言ができることについて、経済の視点での説明。

コロナ支援策については、ただただ行政からの支援金だけでは持続性がないことはみな理解しつつ、他に打つ手がないのではという諦観もみられると感じるが、講話では、マーケティング思考で、今何ができるのかについて言及があった。マーケティング思考が全てとは思わないが、議会内にもう少し根付くと、もっと市の活性化に寄与できるのだろうと思った。

④ 公衆衛生とは何か、定義や歴史等の基礎的な説明をはじめとし、今般のコロナ禍では公衆衛生という概念がなぜ必要かについて。継続的な法律の改訂などにより、時代に即した感染症対策を打つことができ、公衆、市民国民全体によって新型コロナに限らず、今後の感染症全体への拡大防止ができる。公衆衛生学という分野に、強い興味関心を感じている。

⑤ 予算全般における基礎的な講義。何度も予算審議を行ってきたが、改めて体系的に詳細について説明を聞いて、より理解が深まったように思う。令和3年度の予算というテーマであったので、デジタル化推進事業や、地域おこし協力隊についてなど、時事的な支援策の推進について、国の目的や、地方としての心構えなど、今後の質疑や質問のヒントとなった。今後も、このテーマの講義は定期的に受講したいと思う。

⑥ 基金についての詳細。基金には、財政基金、減債基金、特定目的基金と3種類あり、それぞれの性質や、積み立てに必要な割合、具体的な実践例などの説明。

本市では特に、ふるさと納税による基金の積み立てを定例会のたびに審議しているが、イメージとして漠然と捉えていたもので間違えてはいなかったのだが、使途については、今般のコロナ禍もあって、積み立て一方が正しいように考えていたが、そうでもないと思った。

国保税に関する基金についても、たびたび取り崩す旨の提言がなされ討論となっているが、取り崩しの可否に対し、標準財政規模に対する比率の10～20%を満たしているのかどうかといった論点を用いるのも面白いと思った。

⑦ 地方債と、債務負担行為についての詳細。それぞれの比率やバランス、それらを減額していくための具体例などについて。

都城市の市債は、池田市長の就任以来10年ちかく純減を続けているので、あまり心配する必要はないと思っているが、それでも市債の発行は必要であり、その見解について先生の話が聞けて良かった。また、特別会計や企業会計の繰り入れ等、ややこしく感じることについての説明もあり、企業会計に関しては忘れかけていた部分もあって、思い出せてよかった。この講義は繰り返し聴き直し

ていきたいと思う。

7. 研修の成果および市政への反映

コロナウイルスおよびワクチンについては、随分と理解が広がったかと思うが、まだ誤った情報が飛び交うこともあると思われるので、科学的根拠をしっかりと理解し、その拡散、説明に尽力したいと考える。

コロナ禍については、既に2年ほどが経過し、当初に比してエビデンスに沿った感染防止策が打たれていると思う一方、経済的な疲弊に対しては、感情論を完全に排することは難しく、エビデンスによる施策を説明するための感情的な配慮が必要だと思っている。

マーケティング思考については、自身の得意分野でもあるので、少なくとも議会内に一人でも多くの理解者を増やし、建設的な提言をしていきたい。

公衆衛生に関しても、個々人に対する草の根的な啓発が必要と考える。コロナ禍と呼ばれる今だけの一過性のものでなく、継続的な啓発を心掛けていきたい。

財政に関しては、本市は健全化がすすみ安定しているため、市の安定的な財政について市民に適切に説明する役割を果たしたいと考える。